

特集

江戸の七不思議

今回の特集は「江戸の七不思議」。中央区では八丁堀と馬喰町の七不思議が語られています。ちょっと怖い話から、クスッと笑える話まで、江戸っ子たちに親しまれた様々な不思議をご紹介します。

江戸の七不思議とは?

怪談や幽霊の話は各地にあります。江戸時代は、このような不思議な話をいくつか集めてひとくりにし、「●●の七不思議」とすることが流行しました。古くは諏訪の七不思議、摂津四天王寺の七不思議など宗教や土地に関係したものが多かったようです。江戸時代は綺談が好まれて、越後七不思議、甲斐国七不思議などが流行しました。江戸の七不思議の中では本所七不思議がもっとも有名ですが、のちに続々と、江戸城、豊島、麻布、番町、品川、馬喰町、八丁堀、千住など多くの七不思議が語られるようになりました。

江戸の七不思議には、江戸の地域や地形に基づいて特色ある話題が語られており、七つの話題の選定については異説がいろいろあり、当時不思議な現象に事欠かなかった状況がうかがえます。また、七不思議の共通性は、池沼・堀・井戸・橋などの水辺や、異形の樹木・草などの植物、怪音・怪光に関連する現象の三点があげられています。

豊島七不思議

千住七不思議

江戸城七不思議

本所七不思議

番町七不思議

馬喰町七不思議

麻布七不思議

八丁堀七不思議

品川・東海寺七不思議

八丁堀七不思議

町奉行の配下である与力や同心らの組屋敷のあった八丁堀では、怪談ではなく旦那たちゆかりの逸話が数多く残されている。

◆寺あって墓なし

明暦の大火の後の復興に当たり、多くの寺院が江戸の中心部から比較的離れた場所に移転していく中で、西八丁堀の玉円寺だけは由緒ある寺として残されていた。この寺は布教を主にして墓地を持たない寺だった。

◆女湯の刀かけ

男湯は朝から混み合うが女湯が混むのは午後から夜にかけてであったことから、与力同心に何かと世話になっている八丁堀の人々は、旦那たちのために朝は女湯も開放したため刀掛けが置かれた。

◆間米の玄関

ある事件で同心の間米藤十郎が犯人逮捕の功績をあげた際、奉行に褒美を聞かれたが、与力になりたいとは伝えづらく、遠回しに「玄関を構えたい」といったところ、本当に玄関を構える許可だけを出されたので、はずかしくて表に構えられず裏につけた。

◆金で首がつながる

首が飛ぶ罪も賄賂によって手ごころが加えられた。

◆奥様あって殿様なし

与力同心たちは邸地の一部に家を建てて住み、その土地の一部を酒屋や医者など町の人々に貸したことから、町の人々からも信頼され、親近感もあって旦那旦那と呼ばれ、殿様と呼ぶ人は少なかった。

そのほかにも・・・

- 地藏橋あって地藏尊なし
 - 鬼の住居に幽霊が出る
 - 地獄の中の極楽橋
 - 金があっても貧乏小路
 - 八丁堀にあっても神田
 - 佐瀬勇太夫の表裏
- などがあります。



馬喰町七不思議

滝沢馬琴の『菟園小説』に「江戸馬喰町に亦七奇異あり」としてあげられている。また文中では「七ふしぎ」の項が設けられ、その冒頭で、あやしい事象が重なることを七不思議と言い、その起源は越後であると前置きしている。

◆卵を産む女

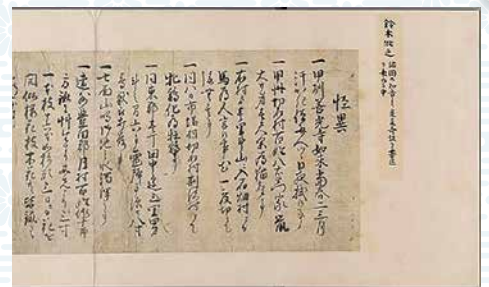
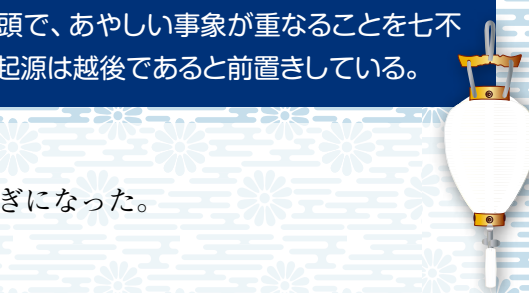
布袋屋という商人の裏借屋に住んでいる男の女房が、卵を産んだと騒ぎになった。しかし実際は卵ではなく、卵膜に包まれたまま生まれた胎児であった。

◆水溜桶に落ちた子ども

4歳になる子どもが、商人の店の前にある天水桶という水溜桶に落ちて亡くなった。夏の日の中で、その桶の水が潤れて桶の半分ほどになっていたところに、子どもが桶の中に落とした人形を取ろうとして誤って落ちてしまい、誰にも気づかれずそのまま亡くなってしまった。

そのほかにも・・・

- 怪しい獣
 - 三匹の犬
 - 三日月井戸
 - 和睦の後の傷
 - 先祖の因縁
- などがあります。



馬琴が披瀝した「七ふしぎ」の元になっている曲亭来簡集に収められた「怪異」 国立国会図書館所蔵

本所七不思議

今日まで伝わっている本所七不思議はおおよそ次の九つ。

1 置いてけ堀

本所のとある堀で釣った魚を持ち帰ろうとすると水の中から「おいてけ～おいてけ～」と不気味な声が聞こえ、慌ててその場を離れると釣った魚がなくなっていたという話。

「置いてきぼりをくう」の語源になった話で、現在の錦糸町辺りという説がある。

2 足洗い屋敷

本所にある旗本の屋敷では、夜更けになると天井から血だらけの巨大な足が天井を突き破ってあらわれ、「足を洗え」と騒ぐ。洗うとおとなしく戻り、天井も元どおりになるが、手を抜くと屋敷中の天井を踏み抜いてしまうという話。

この話は番町七不思議にも登場します。

3 落葉なき椎

本所御蔵橋北にある松浦家上屋敷には、見事な椎の木があるのだが、どんなに風が吹いても落葉するのを誰も見たことがないという話。

椎の木は常緑樹なので落葉樹のように葉が落ちないが、それでもまったく葉が落ちないわけではない。いったい、いつあれほど綺麗に掃除しているのだろうというような話が二転三転して今のような話になってしまったと推測されている。

4 片葉の葦

留蔵という男はお駒という娘を想っていたが相手にされず、両国駒止橋近くでお駒を斬り殺し、堀へ捨ててしまった。それ以降この付近に生える葦は片方しか葉をつけなくなったという話。

片葉の葦にまつわる伝承は全国に多く、江戸でも本所のほか千住七不思議にも登場するが、内容は異なるところがある。

本所七不思議とは、必ずしも固定された七つの話というわけではなく、現在では消滅してしまった話も含めて12話あるなど、もともと個々に語られていた伝承を集めたものである。

5 燈無蕎麦

本所南割下水近くに、行灯のついていない無人の蕎麦屋の屋台があった。いくら待っても店主はやってこない。客が行灯に明かりを点けてもすぐに消えてしまい、あきらめて帰ると、凶事がおこるという話。

これと反対の話に明かりが点いたままの「消えずの行灯」がある。同じくだれもいない蕎麦屋の屋台だが、点いたままの行灯を無理やり消そうとすると、凶事がおきるという話。

6 送り提灯

夜更けに本所出村町（現在の墨田区太平あたり）辺りを歩いていると前方に提灯の灯りが見え、近づくとう消えてしまう。まるで、道案内をしてくれるような提灯であるという話。

この辺りは寺町で昼間でも寂しいところがあり、夜にもなれば人っ子一人いないような場所だった。何か害悪をもたらすわけではないが、提灯の灯りがあらわれては消える不思議な現象で人々は何ともいえない不気味さを感じたのだろう。

7 送り拍子木

本所入江町（現在の墨田区緑あたり）の時の鐘近くで夜回りをしていると、どこからともなく拍子木のカチカチという音が聞こえてくるという話。

江戸における時の鐘は、二代将軍秀忠の頃、日本橋本石町三丁目（現在の日本橋室町三丁目）にはじめて設けられた。以降、浅草、本所、上野、芝、市ヶ谷、目白、四谷のほか17か所に設けられた。音というのは、その時の気象や建築物などの環境によって消音されたり響いたりする。拍子木の音も何らかによって共鳴したのではないだろうか。また、時の



本所七不思議之内
「置行堀」



本所七不思議之内
「足洗邸」
墨田区教育委員会



本所七不思議
「送り提灯」



鐘にも不思議な力が潜んでいると考えられていたようで、日本橋本石町の鐘撞役の娘はろくろ首だという噂が流れるなど、鐘にまつわる畏敬の念から不思議な話が発生したとも考えられている。

③ 津軽家の太鼓

火事を知らせる際に町方では半鐘を叩き、大名屋敷では板木を打っていたが、南割下水近くにあった弘前藩津軽家上屋敷だけは何故か太鼓を打つことが許されていたという話。なぜ津軽藩だけが太鼓を叩くことを幕府に許されたのか人々は不思議がり、これがいつしか七不思議のひとつに数えられるようになった。

④ 狸はやし

(馬鹿囃子、馬鹿太鼓)

夜になるとどこからともなくお囃子の太鼓が鳴り響き、遠くで聞こえたと思うと近づいてきたりと、なんとも不思議な囃子だった。また、その調子に誘われるままついて行って、気が付くと野原の真中で寝ていたという話。どこで太鼓が叩かれているのか誰も突き止めたことがないという怪奇現象である。

同様のものは麻布、番町、千住など各地の七不思議でも伝わっており、お囃子の原因を狸のいたずらとするのが通説のようである。

その他の江戸七不思議

◆麻布の七不思議

古くからの寺社、木々が茂る暗い坂道、ひっそりとした武家屋敷地など、土地柄を反映している。また狸穴の狸蕎麦など、狐狸にまつわる話が多いのも特徴。

◆番町七不思議

怪談「番町皿屋敷」でも有名な武家地。月見団子を供えると怪しい老婆が現れ不幸をもたらす城家の団子婆、旗本の朽木家では挙式をすると幽霊が現れる、など七不思議も屋敷を特定しているものが多い。

◆品川・東海寺七不思議

三代将軍徳川家光が沢庵和尚のために建立したとされる寺。和尚が叱ると黙る池の蛙、伐ろうとすると血を流す松の木など、動植物にまつわる怪異が特徴。

◆千住の七不思議

千住大橋の大亀、千住大橋の大緋鯉、子福さまなど

◆豊島七不思議

狐の嫁入り、人形流し、でっかん坊橋など

◆江戸城七不思議

徳川の歴代将軍が居城としてきた江戸城。当時は内郭だけで30万坪以上の広大な敷地をほこった。夜泣き岩や月見の池、願掛け松など



鳥高斎栄昌「狐の嫁入り」
ニューヨーク公共図書館所蔵

- (参考文献) 『江戸の怪異と魔界を探る』飯倉義之／監修(カンゼン)
『隅田川の伝説と歴史』すみだ郷土文化資料館／編(東京堂出版)
『古地図で巡る江戸の怪談-不思議さんぽ帖-』(双葉社)
『日本随筆大成』日本随筆大成編集部／編(吉川弘文館)
『中央区の昔を語る1』中央区教育委員会社会教育課文化財係／編(中央区教育委員会)
『江戸学事典』西山松之助[ほか]／編(弘文堂)
『江戸東京学事典』小木新造[ほか]／編集(三省堂)

日本橋地区の寺・神社 其の十二

兜神社

商業の守護神である倉稻魂命を御祭神とし、大国主命・事代主命が合祀されている。東京証券取引所の鎮守であるため、証券界の守り神とされている。

由来・沿革

弘化2(1845)年版の地図に、牧野邸の東北隅、鎧の渡付近に鎧稲荷と兜塚が描かれており、この頃すでに当地の鎮守として信仰を集めていた。明治4(1871)年、東京商社(三井物産の前身)の移転に伴い、鎧稲荷と兜塚は鎧の渡と兜橋の中間に遷された。この時兜塚として祀られていた源義家公のご神霊を、兜神社として社を創建して祀り、さらに鎧稲荷と合併して、新たに兜町の鎮守、兜神社として定めた。明治7(1874)年、源義家公の祭祀を廃止して、兜町一丁目の地主であった三井家の信仰していた三囲稲荷神社の境内摂社である福神社より、大国主命と事代主命のご分霊を勧請して合祀した。



明治11(1878)年、東京株式取引所(東京証券取引所の前身)の設立に伴い、取引所が兜神社の氏子総代となり、以後証券界からの信仰を集めるようになった。

その後、昭和2(1927)年に日本橋川と楓川の分岐点の角地に移転、鉄筋コンクリート造りの社殿を造営。さらに昭和46(1971)年、高速道路の建設に伴い、旧社殿を解体し少し位置を移動して現在の鉄筋コンクリート、一間社流造・向拝付きの社殿を造営した。

兜 岩

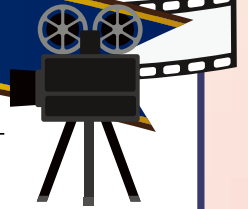


境内にある兜岩の由来は諸説あるが、裏付けとなるものは残っていない。

- 説1. 後三年の役で源義家が奥州より凱旋した際、東夷鎮定のため兜を楓川のほとりに埋め塚を作り、これを兜塚と呼ぶようになった。
- 説2. 前九年の役で源義家が奥州征伐に向かう際、岩に兜をかけて戦勝を祈願したことからこの岩を兜岩と呼ぶようになった。
- 説3. 承平の乱で、藤原秀郷が平将門の首を討って京都に運ぶ際、その将門の打ち首に兜を添えていたが、罪滅ぼしにこの地に兜だけ埋め塚として供養した。この塚を当時は兜山と呼んだが、そこに兜神社が建ち、いつしか兜岩だけが残った。

(参考文献) 『「兜神社」の由来—商業の神様』(兜神社世話人会)
「JPX日本取引所グループ」HP内 「東京証券取引所・兜町の由来」
<https://www.jpjx.co.jp/corporate/aboutjpx/history/01.html>

図書館からのお知らせ



日本橋図書館映画の日 会場：6階図書館ホール

11月14日(土)・15日(日) 洋画2本立て

午前『アラビアの女王
—愛と宿命の日々—』 (2014年・128分・アメリカ) 午前9時30分開場 10時開演
監督/ヴェルナー・ヘルツォーク 出演/ニコール・キッドマン、ジェームズ・フランコ他

午後『グリーンブック』 (2018年・130分・アメリカ) 午後1時30分開場 2時開演
監督/ピーター・ファレリー 出演/ヴィゴ・モーテンセン、マハーシャラ・アリ他

12月19日(土)・20日(日) 冬の作品2本立て

午前 ムーミンパペットアニメーション
『冬の巻/ムーミン谷の冬』 (2013年・110分・ポーランド) 午前9時30分開場 10時開演
監督/ルツィヤン・デンピンスキ他 原作/トーベ・ヤンソン
声/松たか子、段田安則他

午後『三十四丁目の奇跡』 (1947年・96分・アメリカ) 午後1時30分開場 2時開演
監督/ジョージ・シートン 出演/モーリーン・オハラ、ジョン・ペイン他

12月28日(月) 日本の年末はコレでしょう

『紅白が生まれた日』 (2015年・72分・日本) 午前9時30分開場 10時開演/午後1時30分開場 2時開演
演出/堀切園健太郎 出演/松山ケンイチ、本田翼他

※申込開始日、申し込み方法、上映開始時間等詳しい情報は館内ポスター等をご覧ください。※上映作品は都合により変更する場合があります。ご了承ください。

最近の行事より

6月26日(金)～8月26日(水)

展示『SDGs継続する社会・平和』

8月28日(金)～10月21日(水)

展示『SDGs継続する社会・環境』

★テーマを2回にわけて、SDGsに関する展示をおこないました。



9月13日(日)

子ども図書館員



午前、午後あわせて、4年から6年生の小学生30名の子どもたちに、普段は見られない書庫などの見学を含め、図書館の仕事を体験してもらいました。

9月28日(月)

親子で楽しむ絵本講座



講師の植田たい子氏に、絵本の選び方やわらべうたなどを教えていただきました。

★日本橋図書館では、感染症対策を行って、水曜日のおはなし会を9月から、土曜日のお話会を10月から再開しています。



今後の行事の予定

イベント『まるごとミュージアム』 11月8日(日)

展示『中央区の百貨店の歴史』 開催中～12月23日(水)まで

展示『珠玉のミステリーを味わう』 12月25日(金)～

いずれも7階展示コーナーにて

編集後記

秋も終わりが近づき、本格的に寒くなってきました。手洗い、うがいを徹底し、体調に気を付けて過ごしましょう。(Y.H)